

四月の県議選において
再選を果たしていただき、三期目がスタートしました。選挙戦を通じていただいた地域の皆様方からの課題や要望に対し、解決に向けてしっかりと取り組んでいく所存です。
初心を忘れることなく引き続き全力で頑張っています。



プロフィール ■ 1972年 滋賀県甲賀市生まれ ■ 甲賀市甲賀町 在住 ■ 家族構成：母・妻・長男(大学生)・次男(大学生) ■ 土木交通・警察・企業常任委員会、議会運営委員会、地方創生・子ども政策推進対策特別委員会

田中松太郎 事務所 甲賀市水口町北脇436-1 TEL.0748-63-5340/FAX.0748-63-5341

田中松太郎 検索

山口県美祢市にて災害ボランティア

7月21日に、山口県内の大雨に伴う災害のボランティア活動に入るため、美祢市の災害ボランティアセンターを訪れ、そこから西厚保地域の災害ボランティアに入りました。



美祢市内は6月30日の豪雨で河川の氾濫による浸水被害を受けたお宅が多い中、今回訪問した先は自宅の裏山が崩れ、土砂が自宅に流れ込むという被害に遭われ、その後の7月の雨でも再び土砂が流れ込むなど、大きな被害に遭っていました。
二次災害の危険性もあり、なかなかボランティアが入れなかった箇所ですが、今日は県外からのボランティアメンバーで、終日土砂の撤去作業を行いました。



コロナ禍では、県外ボランティアの受け入れを制限されるケースも多く、しばらく災害ボランティアには参加できておりませんでした。水害系ではこれまでに2017年7月九州北部豪雨の際に、福岡県朝倉市赤谷川流域の災害ボランティアに参加したほか、2018年7月西日本豪雨では、7月に岡山県総社市、8月に広島県安芸郡へ、また2019年10月長野県台風19号による長野市千曲川の氾濫に伴う災害ボランティアにも参加しました。



今回、参加されていた県外からのボランティアの方々も、様々な災害ボランティアに参加されているベテランばかりで、作業はかなりはかどりました。山口県のほか、九州各地や富山県、秋田県においても災害復旧活動が行われており、各地域の1日も早い復旧、復興をお祈り申し上げます。

6月定例会議 一般質問

ニホンザルの獣害対策について

野生動物の獣害対策、中でもニホンザルは他の野生動物より知恵が働くため、被害は年々深刻化している。このニホンザルの獣害対策については平成29年(2017年)6月定例会議で一般質問を行っており、当時は滋賀県ニホンザル第二種特定鳥獣管理計画の第3次特定計画の期間中で、農業被害に関しては一定の成果がみられるものの、生活被害拡大している点について指摘し、対応を求めた。

その後、平成31年(2019年)に第4次の特定計画が策定され、これに基づいた獣害対策が行われている。本年度は第4次特定計画の5年目の最終年度であり、次期計画である第5次特定計画の策定も予定されていることを踏まえ、以下の質問を行った。



質問動画

Q ニホンザルの第4次特定計画に基づいた獣害対策の取り組み状況について。

A 琵琶湖環境部長 追い払い等の地域ぐるみの被害防除対策に加え、捕獲や分布管理を行う個体群の管理、餌場となる多様な森林をつくる生息環境管理の3つを適切に組み合わせながら取り組みを進めている。

Q ニホンザルの個体数の状況について。

A 琵琶湖環境部長 令和元年度から令和4年度までの調査結果から、県内全体で134の群れで、約5,200頭と推定。前回平成27〜同29年度の調査結果と比べ、8群れ増加し、総数で約180頭の減少となっている。

Q ニホンザルによる農作物被害の状況について。

A 農政水産部長 令和4年度調査では、県内19市町のうち、ニホンザルの群れが存在する11市町において、農作物被害が報告されており、被害額は約1,500万円で、ピーク時の平成22年度に比べ6分の1以下にまで減少している。

Q 農作物の被害防除の取り組み状況について。

A 農政水産部長 住民による追い払い、電気柵の設置、野菜の収穫残さの鋤き込みや収穫予定の無い果樹の除去等、えさ場としての価値を下げるなどを組み合わせた総合的な対策を、集落ぐるみで推進している。

Q 以前から問題となっている、農作物以外のニホンザルによる生活環境被害の状況について。

A 琵琶湖環境部長 家庭菜園における食害や屋根の損傷、家屋への侵入、人への威嚇など、生活環境被害などが、近年増えている。県の調査では、出現回数、農作物被害の発生頻度、人慣れのレベルというのを判定しているが、近年は高止まりしている状況。

Q 農作物の被害防除により餌場を失ったザルたちが集落に生活環境被害をもたらしているようだが、生活環境被害の防除の取り組み状況について。

A 農政水産部長 農作物の被害防除として、集落で取りまとめられている総合的な対策が、間接的に生活環境被害の防除にもつながるものと認識している。

Q 被害防除は農作物を守るためのもので、生活環境被害の防除の予算や対策は農政水産部ではなく、琵琶湖環境部の対応となるが、生活環境被害の防除の対策について。

A 琵琶湖環境部長 悪質性が高い(集落へ頻繁に出没して生活環境被害等を及ぼし、地域で追い払い等を実施しても被害が軽減できない)群れの場合は、県が支援して、市町が群れ単位での捕獲を実施している。

群れ単位での捕獲は被害低減につながる有効な対策ではあるものの、専門家による高度な捕獲技術と多額の費用を要することから、国に対して支援の拡充を要望している。

Q ニホンザルの捕獲実施状況について。

田中松太郎の日々の活動は SNS等で配信しています!

公式ホームページ
Facebook
Instagram
<http://matsutaro.jp/>
検索 Q 田中松太郎

7/19 地方創生・子ども政策推進対策特別委員会



守山学園(守山市笠原町)は、様々な事情で家庭で暮らせない子の生活拠点となるなど、困難な状況にある子どもを支える上で大きな役割を果たしている。今後の委員会活動の参考とするため同学園を訪問し、子どもたちに対する支援に向けた取り組みを調査した。

7/26 土木交通・警察・企業常任委員会



長浜市役所(長浜市八幡東町)にて、長浜市へ移住された方との意見交換を実施した。長浜市は移住情報ランキング「S MOU T 移住アワード2022」の興味を持った市区町村部門で全国2位となっており、移住の理由などを聞き取りした。



(公社)滋賀県建設産業団体連合会(大津市におの浜1丁目)にて、「建設業の担い手確保について」をテーマとして意見交換を行う県民参画委員会を実施した。



高速道路交通警察隊(栗東市小野)を訪問し、その活動について調査を行うとともに、新名神高速道路延伸工事現場の視察を行った。